

# 個々の発達を踏まえたキャリア教育に向けて

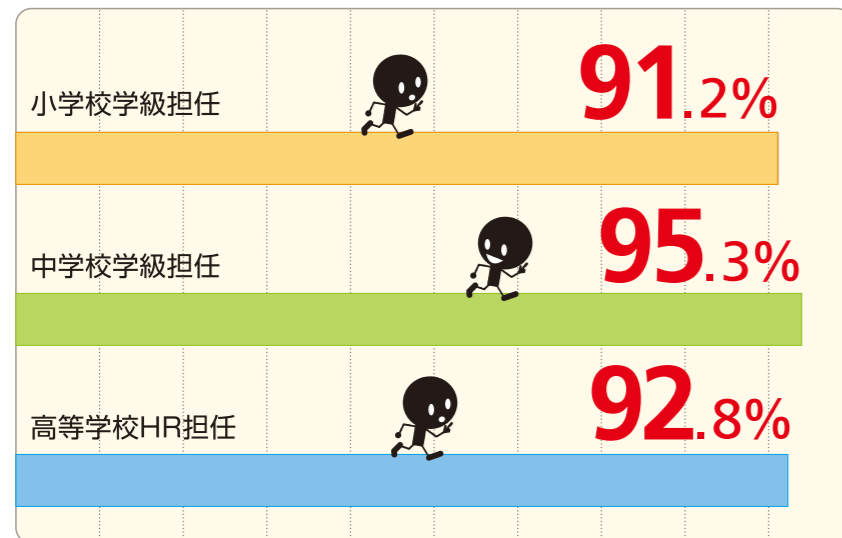
子供たちは学校を卒業したあと、自ら判断し、自立し、自分の人生を生きていかななくてはなりません。しかしながら、自立して生きていくことは急にできるようになるものではなく、準備を必要とします。

そのため、学校にいる間から、子供たちが自分の思いや自分を取り巻く人たちの願い、自分の置かれている環境などを見つめ、自らの生き方を考える経験をしておくことはとても重要になってきます。

**「自らの生き方に関わるキャリア教育の充実」が重要であることは、多くの先生方が実感していることが明らかになっています。**

「自らの生き方にかかわるキャリア教育の充実」が今後重要になると回答した割合

\*「とても重要だと思う」、「ある程度重要だと思う」の計



【キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書】 P87, 154, 264

だからこそ、先生方の働きかけが問われています。

目の前の子供たち一人一人の今までの経験や状況を捉えてきた先生方こそが、子供たちが成長し、未来に向かって学んでいくことの手助けをする絶好の位置にいます。先生方が見た子供たちの状況を積極的に生かして、個々の発達を踏まえながら働きかけていきたいところです。

このパンフレットは、キャリア教育に関する全国調査の結果に基づいて作成されています。

調査名称: キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査

実施時期: 平成24年10月~11月

調査方法: 各都道府県、政令指定都市において所管する公立学校からの抽出

調査協力: 学校(小995校, 中500校, 高993校), 学級・ホームルーム担任(小1, 681名, 中950名, 高1, 978名),

児童生徒(小4, 179名, 中4, 235名, 高4, 660名), 保護者(小4, 008名, 中3, 931名, 高4, 259名), 卒業生(中1, 503名, 高1, 169名)に御協力を頂きました。

※本調査結果の詳細については、以下の二冊の報告書を御参照ください。

第一次報告書: [http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career\\_jittaityousa/career-report.htm](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/career-report.htm)

第二次報告書: [http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career\\_jittaityousa/career-report\\_2.htm](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaityousa/career-report_2.htm)

個々の発達を踏まえて働きかける方法はいろいろとあります。例えば、その一つであるキャリア・カウンセリングを取り上げてみましょう。データからは、小学校、中学校及び高等学校の特徴が見えてきます。

キャリア・カウンセリング(進路相談)を実施している(小中高・学級(ホームルーム)担任調査)

【キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書】 P83, 148, 256

小学校学級担任

4.7%

中学校学級担任

75.1%

高等学校HR担任

75.4%

ところで、小学校と中学校、高等学校の間に、本当にこのような違いがあるのでしょうか。

一人一人を大切にしているのは、どの学校種でも同じじゃないのかな?



小学校には中学校、高等学校の二者面談・三者面談のような進路相談の機会はありませんが、自己を理解する学習は積極的に行っています。

自分を理解する学習の実施状況(キャリア・カウンセリングを含む)

【キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査第一次報告書】 P70

小学校低学年

49.3%

小学校中学年

60.9%

小学校高学年

79.3%

一方、中学校、高等学校では、二者面談・三者面談のような進路相談のときだけでなく日常生活のいろいろな場面で、個々の発達を踏まえた働きかけを意図的、計画的に行うことが大切となります。

では、個々の発達を踏まえた働きかけを充実していくためには、どのようにしていくべきなのでしょう?